

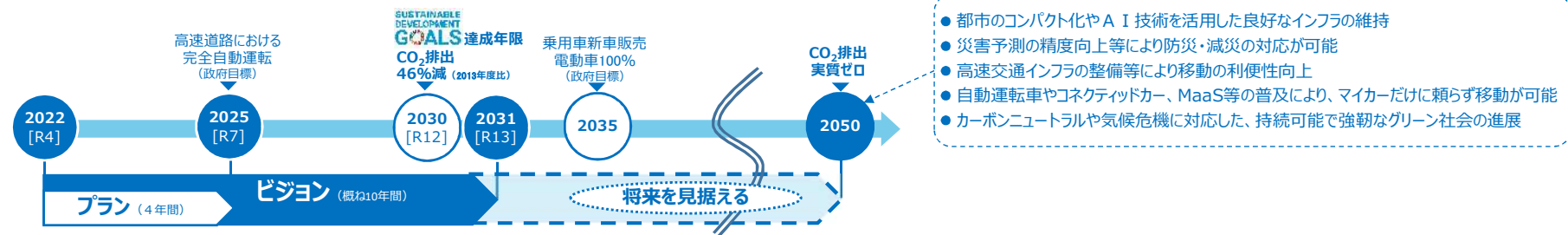


策定の趣旨

- インフラ整備は、県民の安全・安心の確保や社会経済活動の基盤となり、今を生きる私たちだけでなく、**未来を担う将来世代に対する投資**となるものである。
- 県民の理解を得た上で、戦略的・計画的に整備を進めることが不可欠**であることから、**本県のインフラ整備の“羅針盤”**として、県土づくりやインフラ整備の方向性を県民へわかりやすく示す「インフラビジョン」の策定が必要である。
- 2018(平成30)年3月に策定した、現在のインフラビジョンは、策定以降、「自然災害の激甚化・頻発化、切迫」、「インフラの老朽化の加速」、「デジタル革命の加速」や「グリーン社会の実現に向けた動き」など、**インフラを取り巻く社会情勢が大きく変化していることから、これらを的確に捉え、インフラビジョンを改定する。**

計画期間

- 2050年の社会インフラの姿を見据えた上で、**概ね10年間の基本理念、課題や方向性などの「ビジョン」**を明らかにし、**4年間の具体的な取組内容を「プラン」**として示す。
- インフラは、**長期に渡り使用され、世代を超えて共有していく資産**となるため、整備に当たっては、**中長期的な視点が必要**である。
- 今から、約10年後の**2030年**は、SDGsの達成年限や、2050年カーボンニュートラルに向けて**温室効果ガスを46%減とする中期目標年**となる重要な年となる。
- このため、「ビジョン」の計画期間は、2030年を含む**2022年度～2031年度**とし、「プラン」の計画期間は、当初の**2022年度～2025年度**とする。



- 都市のコンパクト化やAI技術を活用した良好なインフラの維持
- 災害予測の精度向上等により防災・減災の対応が可能
- 高速交通インフラの整備等により移動の利便性向上
- 自動運転車やコネクティッドカー、MaaS等の普及により、マイカーだけに頼らず移動が可能
- カーボンニュートラルや気候危機に対応した、持続可能で強靱なグリーン社会の進展

2022 [R4] **ビジョン** (概ね10年間) 2031 [R13]

基本理念

富国有徳の美しい“ふじのくに”の実現に向けた「いっしょに、未来の地域づくり。」
～ 誇りと愛着を持って県土を育み、静岡の明るい未来へ ～

2050年を見据えた本県の未来を創るインフラのあり方

社会・経済・環境の調和による、持続可能で強靱な県土づくり

時代の潮流

“SDGs”の理念を踏まえた取組の加速

SDGs実施指針 ビジョン

持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す

社会

自然災害の激甚化・頻発化、切迫
人口減少・高齢化 インフラの老朽化
心の豊かさを求める価値観への移行 など

新型コロナウイルスによる
社会情勢の変化

- ・テレワーク等を活用した地方・郊外での居住、二地域居住の拡大
- ・リスクに強いサプライチェーンの構築 など

相互に関連複雑化

経済

グローバル化への対応
デジタル革命の急速な進展 など

環境

カーボンニュートラルなどグリーン社会の実現への動き
自然との調和への関心の拡大 など

今後10年間における 県土づくりの方向性

安全・安心	活力・交流	環境・景観
<p>Resilience</p> <p>激甚化・頻発化する自然災害などから、命と暮らしを守る “強さとしなやかさ”を備える 県土づくり</p>	<p>Earning power</p> <p>地方創生に向け、陸・海・空の交通ネットワークを活かし、“地域の稼ぐ力”や“地域価値”を高める 県土づくり</p>	<p>Comfortable life</p> <p>心の豊かさを感じることができるよう、美しい景観と良好な環境に満ちた“ゆとりある暮らし”を支える 県土づくり</p>
<p>県民との 共創 (Open innovation (オープン イノベーション))</p>		
<p>県土との 共生 (Carbon neutral (カーボン ニュートラル))</p>		

2022 [R4] **プラン** (4年間) 2025 [R7]

施策・取組推進のために重要な“視点”

“県土のマネジメント”によって、ストック効果を最大化

県土の“マネジメント”

いかす (利活用) + つくる (整備) + まもる (保全)

歴史 + 産業 + 文化 + 自然環境

シビックプライド

ストック効果最大化

インフラの潜在力を引き出す

インフラによる新たな価値を創造

“いかす”を重視し、各段階において工夫を凝らした取組を実施 **静岡県の“場の力”**

各分野における“施策”

安全・安心	活力・交流	環境・景観
<ul style="list-style-type: none"> ● 激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化 ● 持続可能なインフラメンテナンスの推進 ● 安全・安心な移動空間の確保の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能で活力あるまちづくりや農山漁村づくりの推進 ● 産業や交流を活性化させる交通ネットワーク機能の強化 ● 交流拠点となる港湾・空港の機能強化と利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然との共生と資源の循環利用の推進 ● 豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成 ● 誰にもやさしく、快適な生活環境の形成
<p>● 県民との 共創 (Open innovation (オープン イノベーション))</p> <p>・ 3次元点群データの利活用促進 ・ i-Constructionの推進 ・ 公共交通への自動運転の導入など</p>		
<p>● 県土との 共生 (Carbon neutral (カーボン ニュートラル))</p> <p>・ 脱炭素化に配慮したまちづくりの推進 ・ カーボンニュートラルポート形成の推進 ・ 森林吸収源対策 ・ グリーンインフラの推進 ・ 県有建築物のZEB/ZEH化、省CO₂化 など</p>		

施策を効率的・効果的に行うための“重要な取組”

担い手確保・育成	多様な主体との連携・協働
<ul style="list-style-type: none"> ・ 産学官コンソーシアムによる人材確保・育成 ・ 「静岡どぼくらぶ」を活用した戦略的PR ・ 建設産業の働き方改革の促進 ・ 総合的な技術力を備える人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が抱えている課題を解決する仕組みづくり (協働の推進等) ・ 民間活力の導入 (PPP/PFI等)
<p>絶え間ない改善・改革 (PDCA)</p>	